

資源の有効活用による循環型地域社会の形成

～廃棄物の発生抑制、再利用・再生利用、適正処理の推進～

【重点分野の目標の達成状況】

●一般廃棄物の減量・リサイクル

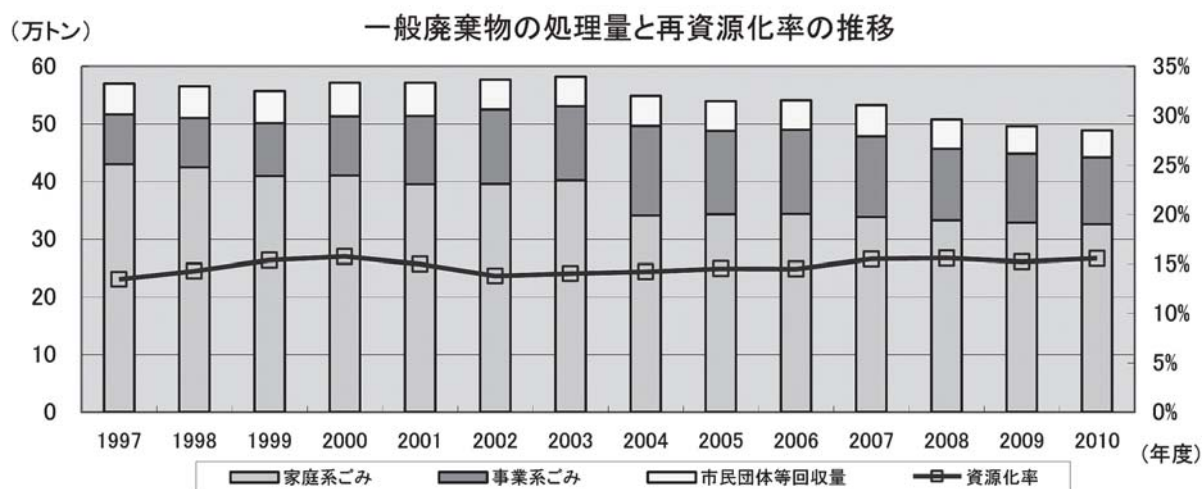
【目標：2000年度に対し、5%削減、再資源化率22%(2010年度)】

2010年度における市民一人一日あたりの一般廃棄物の排出量を、2000年度と比べ24.5%削減しました。また、再資源化率は15.5%です。

●産業廃棄物の減量・リサイクル

【目標：産業廃棄物の排出量を1999年度レベルに抑制、再資源化率を51%とする】

市域から発生する産業廃棄物の量は、496.2万トン(2004年度実績)から470.4万トン(2009年度実績)となり、再資源化率(資源化量÷発生量)は69.8%となっています。

川崎市一般廃棄物処理基本計画
(かわさきチャレンジ・3R) 推進中！

●ミックスペーパーの全市収集開始

2006年11月より川崎区・幸区の約4,200世帯でモデル収集を開始したミックスペーパー(難再生古紙を含む雑かみ)について、順次、モデル地域を拡大し、2011年3月からは全市での収集を開始しました。

●プラスチック製容器包装の分別収集

循環型社会と低炭素社会を実現するため、新たな分別収集品目の拡大を目指し、容器包装リサイクル法に基づく「プラスチック製容器包装」の分別収集について、2011年3月から南部地域(川崎区、幸区、中原区)の収集を開始しました。

●生ごみリサイクルプランの推進

2007年2月に策定した「かわさき生ごみリサイクルプラン」に基づき、生ごみリサイクルに取り組む市民等にアドバイザーとして生ごみリサイクルリーダーの派遣・相談を29件行い、多くの方が生ごみの減量・資源化に取り組めるよう事業の推進を図りました。また、生ごみ処理機等の購入費を一部助成する制度も引き続き行い、2010年度は197件の助成を行いました。

川崎市産業廃棄物実態調査結果(2009年度実績)

(単位：万トン、%)

	種類別排出量	業種別排出量	種類別再資源化量	業種別再資源化量
1	汚泥 146.8 (51.2%)	製造業 181.4 (63.2%)	鉱さい 189.4 (57.6%)	製造業 260.8 (79.4%)
2	がれき類 52.8 (18.4%)	「建設業」 70.6 (24.6%)	がれき類 49.6 (15.1%)	建設業 60.1 (18.3%)
3	鉱さい 15.9 (5.5%)	「電気・水道業」 31.1 (10.8%)	汚泥 40.2 (12.2%)	電気・水道業 3.5 (1.1%)

第5次川崎市産業廃棄物処理指導計画

この計画は、本市における産業廃棄物の計画目標、施策の体系化及び数値目標の設定を行うもので、これにより産業廃棄物部門からの循環型のまちづくりを目指します。

【計画期間】平成23年度～平成27年度

【計画目標】環境の保全を前提とした循環型社会の実現

【施策の柱】①3Rの推進 ②適正処理の推進 ③地球温暖化対策の推進

【3つの目標数値】

①排出量…現状維持(平成21年度の排出量2,869千トン)

②再生利用率…約53%(平成21年度の再生利用率50.5%)

③最終処分量…50%削減(平成16年度の最終処分量234千トン)